



証券コード
4748



Innovating for a **Wise Future**



第61期 株主通信

2018年7月1日～2019年6月30日

Contents

株主の皆様へ	1
株主還元	2
KKE 60年の歩み	3
今後の事業成長に向けた取り組み	5
導入事例のご紹介	7
2019年6月期 決算のポイント/ セグメント別の概況	9
財務諸表	10
会社情報/株式情報	裏表紙



ヒト・モノ・コトをつなぐエンジニアリングで、
社会をうごかすさまざまな仕組みを創出していきます。

構造計画研究所
KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.

創業以来60年にわたり培ってきた 工学知をベースに、 これからも社会課題の解決と 持続的な成長を推進してまいります。

株主の皆様には、日頃より当社事業へのご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

第61期の事業報告をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

1959年に設立された当社は、今年60周年を無事に迎えることができました。“工学知をベースにした有益な技術を社会に普及させることで、より賢慮に満ちた未来社会をステークホルダーの皆様とともに創出していきたい”。創業時から持ち続けているこのような思いを「Innovating for a Wise Future」というThoughtに込め、多岐にわたる社会の課題を解決すべく、そして事業体としても持続的な成長を実現すべく、私どもは日々チャレンジを続けています。

当社は、創業の頃より学問知や経験知等を統合した工学知を活用し、先進的な技術とビジネステーマに取り組んでまいりました。建物の構造設計をルーツとしながらも、1961年には当時まだ国内では珍しかったコンピュータを導入し、地盤や周囲の環境解析、建築業界や製造業界におけるIT活用支援、社会システムのシミュレーションや意思決定支援、さらに近年は住まいを取り巻くIoT/IoEサービス等、多様な事業領域へとビジネスを拡大しております。それぞれの事業領域においては、経験曲線効果を重視し、工学知の積み重ねと着実な付加価値向上を行ってまいりました。

おかげさまで第61期も業績は好調に推移し、営業利益は前年度比1億40百万円、率にして12.8%増の12億41百万円となりました。

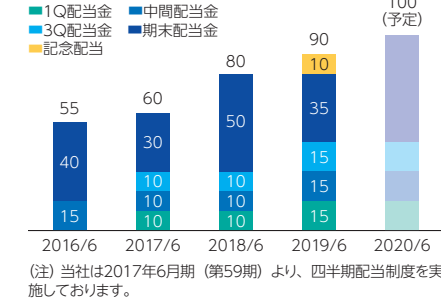
エンジニアリングコンサルティング事業では、先端的な情報技術の導入や競争力強化に対する投資意欲が高い住宅・建設業界の優良企業様からの継続的な受注、安全・安心な社会の構築に資する構造設計業務の受注

株 主 還 元

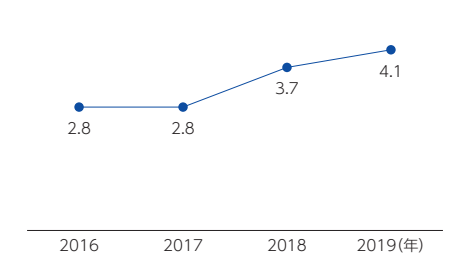
利益配分に関する基本方針

当社は、株主に対する利益還元を重要な経営課題として認識しており、経営基盤の強化及び将来の事業展開に備えての内部留保を勘案しつつ、継続的かつ安定的に配当を行うことを基本方針としております。

配当の推移



配当利回り



に加え、組織的な品質確保の取り組みを通じて不採算プロジェクトの発生を抑制できたことから、増収増益となりました。プロダクツサービス事業では製品開発の期間短縮とコストダウンを実現する設計者向けCAEソフト、製造業向け営業支援ソリューション等の販売に加えて、近年開始したクラウド型メール配信サービスの販売、及び入退室管理クラウドサービスの販売が拡大し、この分野の収益向上に貢献しました。

以上のように主要事業での着実な成長を実現する一方、今後の成長を見据えた投資も継続してまいりました。国内外のパートナー企業と協業するための投資については、国内においては2012年に資本参加したプロメテック・ソフトウェア社が着実な事業拡大を継続しております。当社は、同社の粒子法シミュレーション技術を幅広い分野に適用し、流体・粉体解析ソフトウェアの販売及びコンサルティング業務を展開しております。海外においては2008年より資本・業務提携を開始した米国LockState社の入退室管理クラウドサービスRemoteLOCKを2016年より販売し、IoT時代における建物や住まいの新たな利用形態として事業基盤が整いつつあります。また、2015年から業務提携している、ドイツNavVis社に総額約900万ユーロの出資を実施いたしました。

その他にも、先端的な技術の社会実装を目指し、東北大学、東京大学、情報通信研究機構等、大学・他研究機関との共同研究や連携活動を通じた事業開発を行っております。災害時の通信手段を提供する「スマホde!リレー®」、昨今頻発している大雨に伴う河川の氾濫を予測し防災につなげる「RiverCast」、クラウドプラットフォームでの社会シミュレーションを通じた洞察を提供する「CloudMAS」等、社会的な課題の解決に向けたソリューションの開発を推進しております。

これらの活動を推進するにあたり、最も重要なのは人材の採用・育成だと考えております。人材の採用面では、国内外での積極的な採用活動を、新卒・キャリア採用ともに継続しています。2014年にシンガポールで開始した海外採用活動により、第61期末において外国籍所員は44名と全所員の約7%を占めています。こうした異なる文化や経済圏の経験を持つ人材の参画は、当社における多様な価値観の融合による組織の活性化や新たな事業展開につながっています。社内人事異動や社外研修制度のみならず、米国スタンフォード大学や省庁、外部研究機関への出向など、社内外を含めた様々な活躍の場を提供することで、多様な成長機会の提供を行っております。さらには、定年制の廃止や限定社員制度（勤務地限定、時間限定）、高度プロフェッショナル制度の導入、オフィス環境や福利厚生面の拡充を通じて、優秀な人材がより魅力的な環境で活躍できるような場の整備にも力を入れております。これら諸施策は、財務諸表上には直接成果が表現できませんが、変化する時代の中で持続的な成長を実現するために重要な組織戦略だと考えております。

60周年を迎えた今年、私どもはいま一度この組織が果たすべき社会的な使命を見つめ直し、今後も社会に役立つソリューションをお客様に提供することで、さらなる企業価値の向上を図ってまいります。

株主の皆様には、今後とも一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

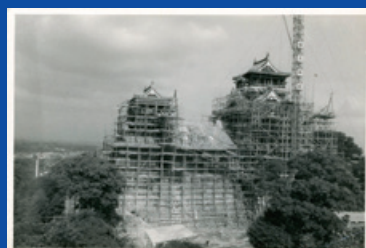
代表執行役社長 服部 正太

KKE 60年の歩み

構造計画研究所は60年にわたる歩みの中で、様々な事業を展開し、社会の課題解決に取り組んでまいりました。その根底を支える創業者の想いは、今も脈々と受け継がれています。

売上高の推移

KKEの事業



1959年

構造設計事務所として設立。日本全国でブームとなっていた城郭再建等の構造設計を行っていました。熊本城、小倉城などが代表的な事例です。

1961年

超高層建築時代に先駆けて、日本で初めて構造設計にデジタルコンピュータIBM1620-Iを導入しました。



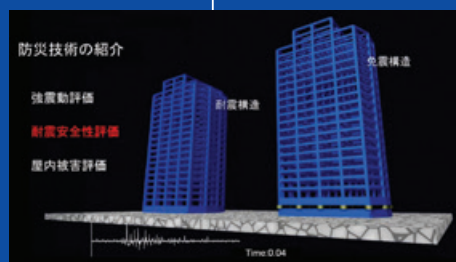
1970年代

自前でソフトウェア開発を行っていく中で、多くの専門技術を身につけ、様々な分野を対象としたシステム開発、コンサルティングサービスへと業容を拡大していきました。



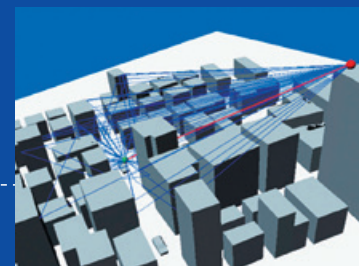
1970年代

コンピュータを利用した、建築物の振動解析を行ってきました。



1984年

1982年に熊本テクノポリス構想が発表され、熊本県菊池郡大津町に1万2千平方メートルの「ソフトの森」を構成する企業として進出することを決定。用地を取得し、現地採用も行い「熊本構造計画研究所」を開設しました。



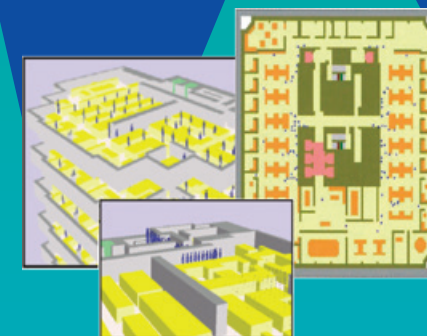
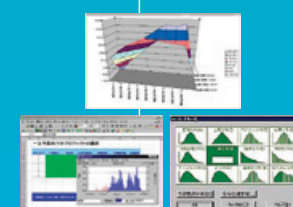
1990年代

携帯キャリアの基幹システム開発や基地局、伝送装置のリアルタイム監視などに携わり、携帯電話の一般への普及に貢献しました。



1990年代

マーケティング・サイエンス分野におけるコンジョイント分析の活用に端を発し、意思決定を支援するコンサルティング業務を始めました。



2000年代

ある条件下で人間社会はどのような事象を引き起こすのかというシミュレーションを、限りなく現実に近い形で行うマルチエージェント・シミュレーション（MAS）の分野に進出しました。2001年からは毎年、「MASコンペティション」を開催し、来年で20回目の開催を迎えます。

2011年

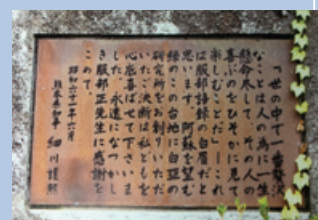
知幹館竣工。世界で初めての三次元免震住宅で話題を呼びました。

2017年

世界初のWi-Fi型スマートロック「RemoteLOCK」の国内販売を開始しました。



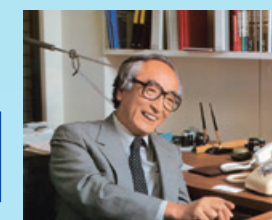
KKEのDNA



「世の中で一番贅沢なことは人のその人の喜ぶのをひそかに見て

為に一生懸命尽くして、楽しむことだ。」

創業者 服部 正



時代背景など

■ 超高層建築ブーム

■ ミニ・コンピュータの登場

■ パーソナルコンピュータ(PC)の登場

■ Windowsの登場
■ インターネットの普及
■ 携帯電話の普及

■ iPhone/
Androidの登場

■ クラウド、IoT、
AI技術の普及

1960年

1970年

1980年

1990年

2000年

2010年

住まい・建物を中心とした新たな事業の展開

RemoteLOCK™

(提供元：米国LockState, Inc.)

部屋や施設のアクセスをクラウドで一元管理

物理的な鍵が不要で、一時的な利用に最適

個別のドアやセキュリティゾーンの設定をきめ細やかに実現

リモートからの解錠・施錠が可能

住まいは次のフィールドへ――

Amazon Echo、Google HomeによりIT業界の巨人達は住まいの「うち」から参入

当社は「RemoteLOCK」により住まいの「そと」から参入

Topics

大阪府池田市と「ICTを活用した持続可能な公共施設の管理に関する基本協定」を締結

構造計画研究所は、公共施設管理の課題解決とスマート化を相互協力のもとに推進するため、大阪府池田市と「ICTを活用した持続可能な公共施設の管理に関する基本協定」を締結しました。

公民館や集会場などの公共施設は運営や鍵管理をめぐってセキュリティ、利便性、行政コストとのバランスの中で多くの課題を抱えています。こうした課題を解決するため、池田市と「基本協定」を締結し、実証事業としてクラウド管理機能を備えたスマートロック「RemoteLOCK」を池田市の公共施設に設置して、その予約・利用を遠隔から一元管理する同市向けの施設管理システムの構築・運用を行います。この実証事業により先進モデルケースをつくり、池田市公共施設のスマート化に寄与してまいります。

NavVis

(提供元：ドイツNavVis GmbH)

屋内環境の課題とNavVisを用いた解決策

正確な情報が必ずしも存在しない

レーザー測距と高解像度カメラを用いて忠実にデジタルデータ化

効率的な屋内情報の取得・共有ができない

大規模施設も数日でデータ化し、WEBアプリケーションで共有

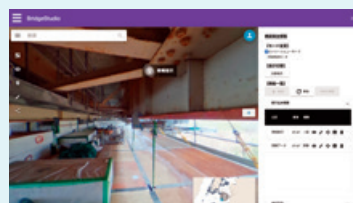
屋外と異なり屋内の地図は見づらく辿りにくい

スマホで動作する直観的なナビゲーション

Topics

橋梁保全の工事現場を3次元バーチャル化する「BridgeStudio」の試験運用を開始

橋梁保全の工事現場における生産性向上を目指し、川田テクノロジーズ社、川田建設社とともに「BridgeStudio powered by NavVis technology」（以下、「BridgeStudio」（ブリッジ・スタジオ））の試験運用を開始しました。「BridgeStudio」はGPSが届かない環境下でかつ不規則な段差が多数ある橋梁吊足場上でも、工事現場を3次元バーチャル化することが可能なITソリューションです。3次元バーチャル化した工事現場をWebページにて共有することで、現場への実地調査確認回数の低減や、オフィス内で業務を行う設計者と現場管理者間の情報共有の円滑化など、生産性向上につなげることを目指します。



「BridgeStudio」の操作画面

Interview



事業開発部 気象防災ビジネス室
熊井 暖陽

社会の課題解決に向けて 新技術の開発に取り組んでいます

平成30年7月豪雨のように、近年、豪雨に伴う急激な川の増水により、各地で洪水被害が発生しています。当社では最先端の数理工学を活用し、水位と雨量データのみからリアルタイムに河川水位を予測する技術を開発し、社会実装を進めています。早期の避難判断や河川周辺の施設・工事現場でのオペレーションを支援し、安全で安心な社会を目指します。本技術の担当者に開発にかける想いをインタビューしました。

Q 気象に関する技術開発に携わるようになったバックグラウンドを教えてください。

小さい頃から風や雲が大好きで、高校の選定理由は“地学が履修できること”でした。大学では大気科学・水文科学・地形学・人文地理学といった地球科学全般を学んだ後、「気象学・気候学」を専攻、文部科学省のプロジェクトに携わる形で、各国の気候変動予測モデルにおける梅雨の再現精度について研究をしました。現在は、事象そのものだけでなく、文化や経済へもたらす影響に興味があり、気象の奥深さを追求し続けています。

Q お天気が本当に好きなんですね。現在はどんな業務を担当していますか？

もっと一般の方にも気象の仕組みを知ってもらいたい、そうしたらより安全でずっと便利になるのに、と常に考えています。現在は、河川の水位と雨量データを利用したリアルタイム河川水位・洪水予測システム「RiverCast」の開発に携わっています。例えばある自治体の危機管理担当者が、限られた人手や時間の中で冷静に判断を下すためにはどんな情報をどのように提示すべきか、綿密にヒアリングを行った上でシステムを構築します。担当者と一口に言っても、対策本部にいる方や河川周辺の現場にいる方などでは必要とする情報も異なります。実務の中で予測情報を使いこなしてもらうために、必要な情報が必要なタイミングで、理解しやすい形で提供できるよう知恵を絞っています。

Q 気象予報士の資格をお持ちとのことですが、取得のきっかけは？

「気象ビジネスがしたい」と入社後ずっと言い続けていたのですが、気象予報士の資格を取ることで自分の本気度を伝えられる、と思ったのです。実際に資格を取得し、同僚や上司だけでなくお客様にもこの資格のおかげで信頼を寄せていただけたようになったと感じています。特に防災に関する気象情報は、種類が多い上、毎年のように変わるので、正しく理解して活用されている方って少ないんです。そういった情報を、分かりやすくお伝えすることも予報士の役目と考えています。同僚からもよくお天気相談を受けますね。

Q 最近の豪雨や台風の頻発についてどうお考えですか？

気候変動に伴う極端現象の増加については、学術界では周知の事実でしたが、それに伴って発生する人的・物的被害の大きさを全く理解できていなかったと痛感しています。観測、予測技術が日進月歩で発展する昨今、リアルタイムでの気象データ解析が可能になっています。危険な状況になる前に、適切な意思決定ができるよう支援することで、近年の降雨災害による被害を少しでも減らしたいと考えています。



■ 導入事例のご紹介

Customer Stories

構造計画研究所の技術やサポートがどのようにお客様の業務に役立っているか、お客様自身にお話しいただきました。

TEIJIN

帝人ファーマ株式会社様

地震時室内被害の可視化コンサルティング 導入事例

『実験室の耐震を考えましょう』
揺れをリアルに再現したシミュレーション映像で、
この呼びかけが説得力を持って伝わるようになりました



帝人ファーマ株式会社
東京研究センター
(左から)
事務室 ESH 班長 洲崎 悟志氏
同副センター長 村上 敏信氏

設備の耐震化の基準がなく、
対策に納得感が得られない

一プロジェクトの概要についてお聞かせください。

帝人ファーマの東京研究センターができて50年余り、敷地内には新旧の建物がありますが、それぞれ耐震、免震の処置が講じられています。でも、実際に働く人たちの安全を確保するためには、研究室、実験室内部で、大地震に見舞われた際にも、例えば機器類の転倒や落下でけがをしたり、避難路が塞がれたりすることのないよう、室内の対策を実行しなければなりません。

KKEには、とにかくみんなの胸に落ちて、対策が横展開しやすいソリューションをお願いしました。具体的には、まずは構造計算などに基づいて建物がどう揺れるのかという耐震性評価を行いました。その結果、やはり震度6クラスの地震になると現状では問題あり、ということが分かりました。そこで、どうやって研究所のみなさんにその事実を伝えていくのかということが、次のステップの課題に。提案されたのが、対策を打たずに大地震に見舞われたら実験室内はどんな状態になるのか、というシミュレーション映像の作成です。

一架空の実験室をCGで作り、実際の設備、器具を置いて「揺らした」のですね。映像の出来栄はいかがでしたか？

目で見てもらうことの効果の大きさを、あらためて感じましたね。想定したのは震度6弱～6強レベルの地震でしたが、

人が押してもびくともしないディープリーザーのような重いものが揺れて倒れる状況は、普段使っているものだけに衝撃的でした。VRにも対応可能ということでしたので、KKEの機器を借りて視聴することもしました。私も見ましたが、さらにリアルで怖いくらいの迫力でしたよ。映像自体が、半年もかからずに納品されたというスピードにも驚きました。そのことも含めて、今回の成果物には非常に満足しています。

全社的な防災意識を高め、
現場が対策を考えるツールに

一映像を活用することによって何か変化はありましたか？

当研究所では、月に1回、二十数名の毎回異なるメンバーで、各部署の防災対策のチェックに回っています。メンバーには必ず映像を見てもらうのですが、耐震に対する指摘の内容が、以前に比べると具体的になったように感じています。指摘されたほうも、前は「本当に必要なのですか？」と私たちに問い合わせがあったりしたのですが、今はほとんどなくなりました。少しずつ、意識の変化は進んでいるのかな、と思います。

今回のプロジェクトの最大の目的は、研究員個々に耐震の意識を高めてもらい、現場の対策を自主的に考える機運をつくり出すことでした。そのツールとしては、非常にクオリティの高いものができました。今後は、並行して進めてきた防災訓練のシナリオ作りといった取り組みも含めて、トータルな地震対策にこの成果をどう生かしていくのかに、知恵を絞る必要があると考えています。

詳細版をWebからご覧いただけます

www.kke.co.jp/teijin.html



NEVER SAY NEVER

ロート製薬

ロート製薬株式会社様

粒子法流体解析ソフトウェア「Particleworks」導入事例

『Particleworks』によるシミュレーションで
実生産設備でのテスト(実機テスト)を省略して
製造工程を立ち上げられるようになりました



ロート製薬株式会社 生産技術部
(左から)
部長 土江 剛史氏
固城 浩幸氏、長光 陽平氏、
黒田 京香氏

開発から製造までのスピードアップと
トラブル減少を目指して

一生産工程で抱えていた課題を教えてください。

ロート製薬が取り扱っている商品の中でも化粧品は新商品が出るスピードが速く、種類も多いです。新商品を開発して製造工程を立ち上げるところまでを「工業化検討」と呼んでいるのですが、さらなるスピードアップやトラブルを減らすことが重要になってきていました。従来のやり方では限界がくるだろうと考えていたため、コンピュータシミュレーションを導入して、工業化検討の期間短縮やトラブルの減少などを実現し、現場で役立てたいと考え始めました。2015年頃のことです。

一シミュレーションソフト「Particleworks」を知ったきっかけは？

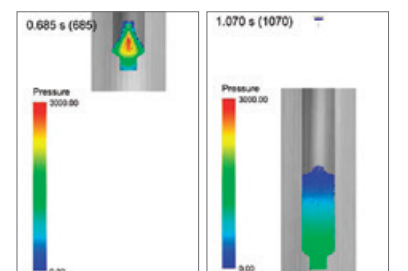
工業化検討のスピードアップが必要な状況で、新しい解決策の1つとしてシミュレーションの調査をしており、シミュレーションを活用している会社がセミナーで講演をするという情報を得ては話を聞きに行きました。他社での活用例で「Particleworks」が有用なソフトであることが分かりましたし、操作体験セミナーで実際に「Particleworks」に触らせていただいて弊社でも役立つことを確信できました。社内で挙がっていた「容器に詰める際の充填は均一に行えているか」「攪拌機内で材料は均一に混ざり合っているか」などの課題も解決できそうだったので導入に向けて動き始めました。

シミュレーションを利用し、
実機テストを省略して製造ラインへ

一シミュレーションの利用によってどのような効果がありましたか？

「Particleworks」導入までは、実際の製造設備を使用して検討を行っていたのですが、その間製造ラインを止めること

になり、お金と時間がかかっていました。加えて、製造設備へのパラメータ設定でもベテランとそうでない人間では設定にばらつきが出ていました。コンピュータシミュレーションを行うようになってからはそういった時間を大幅に削減でき、品質向上にも貢献しています。



チューブ容器への充填シミュレーション結果

ただ、シミュレーションだけで生産を立ち上げようと判断するまでにはかなり慎重にシミュレーションと実機テストの結果を突き合わせながら繰り返し検証し、時間をかけました。その甲斐もあり、導入から2年後、最大では工業化検討期間における実機テストを省略することができました。

一十分に時間をかけて検証し、成果につながられたのですね。KKEに対してはどんな印象をお持ちですか？

KKEには手厚くサポートしていただき、感謝しています。初めてのシミュレーションでここまで使えるようになったのは丁寧なサポートがあったからです。

また、導入前にお話を伺った他社のユーザさんなどから「人のつながりがないとシミュレーションは辛いよ」とよく耳にしましたが、KKEはシミュレーションを導入している他社ユーザとのつながりも作ってくれますので、人的ネットワークが広がり、他社で行っているシミュレーションの話を聞くことができ、参考になります。今後はこちらからもお伝えできる実績を増やしていきたいと取り組んでいるところです。

詳細版をWebからご覧いただけます

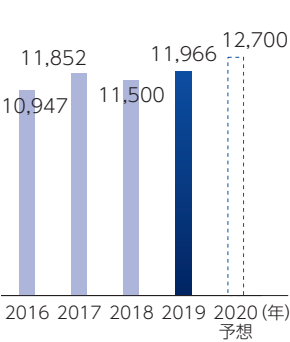
www.kke.co.jp/rohto.html

2019年6月期 決算のポイント

Financial Highlights

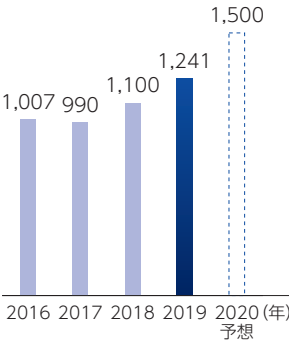
売上高 (単位: 百万円)

119億66百万円
(前期比4.1%増↑)



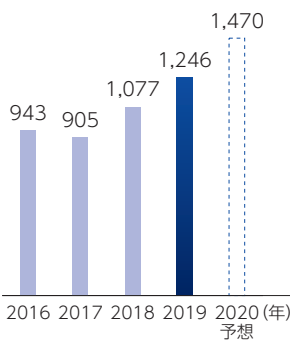
営業利益 (単位: 百万円)

12億41百万円
(前期比12.8%増↑)



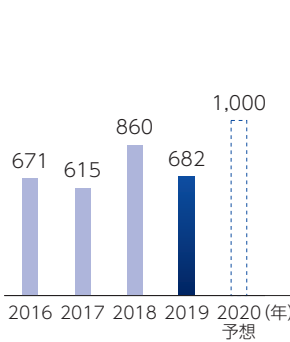
経常利益 (単位: 百万円)

12億46百万円
(前期比15.7%増↑)



当期純利益 (単位: 百万円)

6億82百万円
(前期比20.6%減↓)



セグメント別の概況

Segment Review

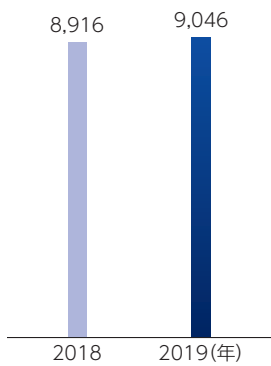
エンジニアリングコンサルティング

売上高 **90億46**百万円 (前期比1.5%増↑)

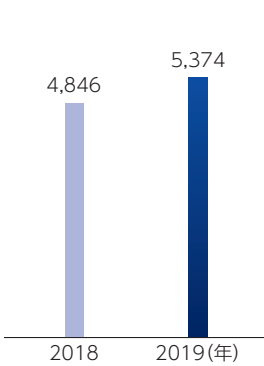
売上総利益 **53億74**百万円 (前期比10.9%増↑)

構造設計コンサルティング業務、住宅メーカ向けシステム開発業務、及び建設・製造業向けシステム開発業務が堅調に推移し、高付加価値なサービスの提供や大型不採算プロジェクト抑制により利益も確保しました。この結果、当事業年度の売上高は90億46百万円（前事業年度は89億16百万円）、売上総利益は53億74百万円（前事業年度は48億46百万円）となりました。

売上高 (単位: 百万円)



売上総利益 (単位: 百万円)



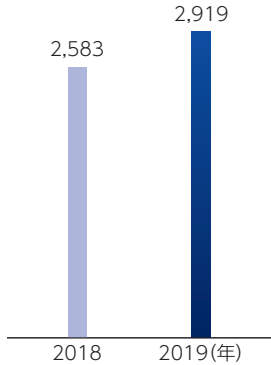
プロダクツサービス

売上高 **29億19**百万円 (前期比13.0%増↑)

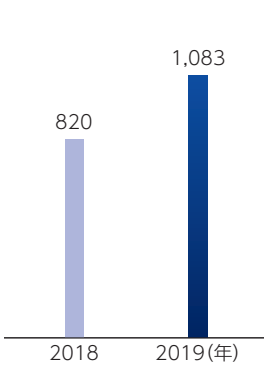
売上総利益 **10億83**百万円 (前期比32.0%増↑)

設計者向けCAEソフト及び製造業向け営業支援ソリューションの販売が堅調に推移しました。また、米国SendGrid, Inc.のクラウドベースメール配信サービスが順調に販売を拡大し、IoT/IoE時代に向けた入退室管理クラウドサービスの販売も拡大しました。この結果、当事業年度の売上高は29億19百万円（前事業年度は25億83百万円）、売上総利益は10億83百万円（前事業年度は8億20百万円）となりました。

売上高 (単位: 百万円)



売上総利益 (単位: 百万円)



財務諸表

Financial Data

貸借対照表 (要旨)

(単位: 千円)

	2018年6月期 (2018年 6月30日現在)	2019年6月期 (2019年 6月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	4,429,137	4,195,516
現金及び預金	1,059,897	1,351,550
受取手形	62,199	71,583
売掛金	1,592,257	1,343,940
仕掛品	542,528	702,261
その他	1,172,253	726,181
固定資産	7,828,629	8,803,258
有形固定資産	5,116,826	5,053,604
無形固定資産	476,028	439,918
投資その他の資産	2,235,773	3,309,735
資産合計	12,257,766	12,998,775
(負債の部)		
流動負債	3,571,342	3,636,613
買掛金	242,199	238,198
短期借入金	—	10,000
1年内返済予定の長期借入金	396,232	541,832
その他	2,932,911	2,846,582
固定負債	3,995,549	3,935,787
社債	—	350,000
長期借入金	1,893,443	1,386,471
リース債務	53,958	35,175
退職給付引当金	1,924,684	2,004,634
役員退職慰労引当金	40,000	40,000
株式報酬引当金	31,140	63,477
資産除去債務	52,323	56,028
負債合計	7,566,892	7,572,400
(純資産の部)		
株主資本	4,673,211	5,435,757
資本金	1,010,200	1,010,200
資本剰余金	1,897,032	1,159,926
利益剰余金	3,943,161	4,117,147
自己株式	△2,177,182	△851,517
評価・換算差額等	17,662	△9,382
純資産合計	4,690,874	5,426,374
負債純資産合計	12,257,766	12,998,775

損益計算書 (要旨)

(単位: 千円)

	2018年6月期 (2017年7月1日から 2018年6月30日まで)	2019年6月期 (2018年7月1日から 2019年6月30日まで)
売上高	11,500,270	11,966,216
売上原価	5,832,836	5,508,373
売上総利益	5,667,433	6,457,842
販売費及び一般管理費	4,566,640	5,216,574
営業利益	1,100,793	1,241,267
営業外収益	15,590	47,162
営業外費用	39,369	42,116
経常利益	1,077,015	1,246,314
特別損失	22,056	242,553
税引前当期純利益	1,054,958	1,003,760
法人税、住民税及び事業税	301,979	364,448
法人税等調整額	△107,098	△43,254
当期純利益	860,077	682,565

キャッシュ・フロー計算書 (要旨) (単位: 千円)

	2018年6月期 (2017年7月1日から 2018年6月30日まで)	2019年6月期 (2018年7月1日から 2019年6月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	598,664	1,633,619
投資活動によるキャッシュ・フロー	△530,636	△1,453,533
財務活動によるキャッシュ・フロー	580,873	111,852
現金及び現金同等物に係る換算差額	△231	△286
現金及び現金同等物の増加・減少額	648,670	291,652
現金及び現金同等物の期首残高	411,227	1,059,897
現金及び現金同等物の期末残高	1,059,897	1,351,550

貸借対照表のPOINT

- 総資産は、前事業年度末に比べて6.0%増加し、129億98百万円となりました。
- 負債合計は、前事業年度末に比べて0.1%増加し、75億72百万円となりました。
- 純資産合計は、前事業年度末に比べて15.7%増加し、54億26百万円となりました。これは、自己株式が13億25百万円、資本剰余金が7億37百万円減少した一方、繰越利益剰余金が1億75百万円増加したことによります。

損益計算書のPOINT

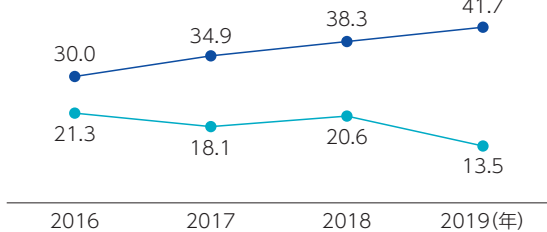
- 売上高は119億66百万円となりました。また、営業利益12億41百万円、経常利益は12億46百万円となり、いずれも公表済みの業績予想値を超える結果となりました。なお、第2四半期会計期間において特別損失を計上したことにより、当期純利益は6億82百万円（前事業年度は8億60百万円）となりました。

キャッシュ・フロー計算書のPOINT

- 営業活動の結果得られた資金は、税引前当期純利益10億3百万円、減価償却費2億69百万円等により、16億33百万円となりました。
- 投資活動の結果使用した資金は、主に投資有価証券の取得による支出12億66百万円等により、14億53百万円となりました。
- 財務活動の結果得られた資金は、主に長期借入れによる収入7億50百万円等により、1億11百万円となりました。

自己資本比率／自己資本利益率 (ROE)

● 自己資本比率 ● 自己資本利益率 (ROE) (単位: %)



□ 会社概要 (2019年6月30日現在)

社 名 株式会社構造計画研究所
英 文 商 号 KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.
設 立 年 月 日 1959年5月6日
資 本 金 1,010百万円
決 算 期 6月
上 場 市 場 東京証券取引所 (JASDAQスタンダード)
事 業 内 容 エンジニアリングコンサルティング /
プロダクツサービス

□ 事業所所在地

本 所 〒164-0012
東京都中野区本町4-38-13
日本ホルスタイン会館内
本 所 新 館 〒164-0011
東京都中野区中央4-5-3
本 所 別 館 〒164-0012
東京都中野区本町6-16-11
A.Sビル新中野 4F、5F
中野イノベーション
オ フ ィ ス 〒164-0001
東京都中野区中野4-10-2
中野セントラルパーク サウス2F
名 古 屋 支 社 〒450-6325
愛知県名古屋市中村区名駅1-1-1
JPタワー名古屋25F
大 阪 支 社 〒541-0047
大阪府大阪市中央区淡路町3-6-3
御堂筋MTRビル5F
福 岡 支 社 〒812-0012
福岡県福岡市博多区博多駅中央街8-1
JRJP博多ビル8F
熊本構造計画
研 究 所 〒869-1235
熊本県菊池郡大津町室1315
上 海 駐 在 員
事 務 所 〒200120
中華人民共和国上海市浦东新区
世紀大道100号 上海環球金融中心15F
KKE SINGAPORE
PTE. LTD. Level 11, Marina Bay Financial Centre
Tower 1, 8 Marina Blvd, Singapore 018981

□ 株式の状況 (2019年6月30日現在)

発行可能株式総数 21,624,000株
発行済株式総数 5,500,000株
株 主 数 2,893名

□ 所有者別分布状況 (2019年6月30日現在)



■ 金融機関 16.39%
4名 / 901,179株
■ 外国法人等 2.12%
38名 / 116,400株
■ 金融商品取引業者 1.85%
23名 / 101,946株
■ 個人・その他 67.38%
2,805名 / 3,706,369株
■ その他の法人 12.26%
23名 / 674,106株

(注)「個人・その他」には自己株式146,529株を含めております。

□ 株主メモ

事 業 年 度 7月1日～翌年6月30日
定 時 株 主 総 会 毎年9月
配当金受領株主確定日 3月31日、6月30日、
9月30日及び12月31日
基 準 日 6月30日
株 主 名 簿 管 理 人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
(郵送先) 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

公 告 の 方 法 電子公告により行う
公 告 掲 載 URL <https://www.kke.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故、
その他のやむを得ない事由が生じたときは、
日本経済新聞に公告いたします。)

株主の皆様の声をお聞かせください

当社は、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施いたします。お手数ですが、
アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4748

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を差し上げていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する
「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細 <https://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこ
れ以外の目的に使用することはありません。(1809)

●アンケートのお問い合わせ TEL: 03-6779-9487 (平日 10:00～17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。